

第2回 おかやま創生有識者会議（第1部）会議録要旨

【知事】

人口ビジョンは総合戦略をより実効性のあるものとするため、本県における人口の現状や将来の姿などについて、広く県民と認識の共有を図るために策定するものである。本県が目指すべき将来の方向を提示する人口の将来展望について、皆さま方の忌憚のないご意見を賜りたい。岡山県が将来どういう地域を目指すかというイメージや、参考になる国や地域の例を出していただければと思う。

最初からある思いを強く込めると、それに対し違和感を持つ人にとっては、ニュートラルに戻すところから始めなければならないので、ある意味、意図的に禁欲的に作ってきた。データの分析から積み上げ、これから肉付けするので、その肉付けの一環として、岡山の人はこういう岡山を望んでいるといったご意見を頂戴し、参考にさせていただきたい。

<人口の将来展望について>

【総合政策局長】

要点説明

【岡崎岡山商工会議所連合会会長】

人口の将来展望には、若者だけでなくお年寄りのことも考えてほしい。バスなどの公共交通がだんだんと廃止になり、交通手段がなくなっているお年寄りが増えている。免許証を返上して、家に閉じこもらないように、街へ出て、生き生きした生活を送ることは本人にとっても、街にとっても素晴らしいことだ。そういう面で公共交通の維持・充実をお願いしたい。

移住調査によると、岡山県は移住したい地域の3番目に入っているが、2010年以前は21位以下ということなので、東日本大震災で、岡山は安全安心で注目され、評価が上がったと思う。しかし、だんだん意識は薄れ、この評価が続くかどうかはわからない。岡山は安全安心を大いに売り物にし、環境に優しい魅力的な地域だということを目指すべきだ。東京圏に移住したいと思っている方が目指す、地域の魅力とは何かということになるが、岡山はこれを目指すという、地域らしさやアイデンティティーをはっきりさせ、訴えることが大切だ。

教育は非常に大事である。若い方が移住するには子育てを考える。教育の水準は非常に気になる。人口が増えていた時代のことだが、企業誘致で進出される企業の方に「何を気にするか？」と尋ねると、教育問題が非常に多かった。移住する人が、教育問題に足踏みし、企業進出を取りやめたという話を聞いた。

岡山は、可もなし不可もなく平均的であり、イメージが薄い。学校でも成績の非常にいい人、悪い人は目立つが、中間は全然目立たないということと同じではないか。だからこそ、岡山らしさをもっとはっきりさせ、訴えていくことが大事である。

【三宅委員】

新潟の燕三条の「磨き屋シンジケート」は、ものを徹底的に磨き上げる技法を一つの売りにしており、全国から仕事が集まっている。例えば、工業高校を出て3年ぐらい磨きの修業、訓練をすれば、21歳くらいで年間600～700万円稼げるらしい。その人の生活が安定し、エリア全体で

特徴のある産業になっている。腕に自信があり、将来に渡って生活に不安がないので、早く結婚して子どもを持つということだ。これからは、そういうことも必要かと感じている。

移住やIターンは必要な施策で、現実には岡山に移住する事実があるので、続けられればいいと思うが、ターゲットがはっきりつかめない。明らかなのは、大学や就職を含め県外へ出る18歳と、大学で県外へ出て帰らないことを含めた22歳の2つのポイントだ。ネイティブ岡山人、岡山に将来にわたり定住する政策を真剣に考えることである。18歳で手を打っても、岡山に残ってくれない。岡山の産業や岡山の良さを子どもたちにきちんとお知らせして、なるべく県外転出を減らすとともに、22歳になっても岡山に帰ってくれるようにすることが必要だ。

地域のどこに魅力があるかを考えることが、ひいては人口増や定着に繋がると思う。自分がどこに住みたいかと考えると、目安は住環境の快適さだ。安全安心は岡山の強みである。また、良質な公共サービスは将来に期待が持てる。また、成長力や便利さも魅力になる。

子ども、大人、お年寄りも楽しいところに住みたい。楽しさを意識した地域づくりは、行政のプランには異質かもしれないが、「楽しい地域にしよう」ということを入れてはどうか。

【森安委員】

人口流出を食い止めるには、小学生ぐらいで植え付ける必要があるのではないか。主人が小学校の食育活動で、収穫したものを子どもたちと一緒に食べているが、「地域の野菜をもっと食べよう」と、家で地域のものを買うようになったりする。小学生のうちだと芽生えやすい。3、4年生は地域のことを勉強するので、人口減少問題について「どうやったらいい岡山にできるだろう」「自分たちで頑張らないといけない」という気持ちを植え付けることがいいと思う。

ももたろう未来塾の公開講座で、リーダーシップを持った人材育成は小学生ぐらいからがいいというお話があった。組織、地域の中でも、盛り上げていける人材を育てることは地域の力になる。そういう人材が県外に行っても、「岡山は教育がしっかりしている、そういう人が育つ場所に行きたい」となるのではないか。

移住したくても、家がないからできない。今は空家だが「もしかしたら息子が帰ってくるかもしれない」という場合や仏壇があるから売りに出せないという場合もある。こういう問題をどう解決していくか。地域住民も「よそ者だから」という意識ではなく、「草刈りの手が増えた」と思えるぐらいの温かい気持ちで受け入れるような雰囲気を作り、みんなで「楽しい」を作り上げることがいいと思う。田舎でも関係性がだんだん希薄になり、面倒だから祭をやめようなどとなってきている。行政だけでなく、地域を盛り上げることを、どう地域に落とし込むかが大切である。総合戦略をどう浸透できるかがポイントと思う。

前回の有識者会議で、男性のアプローチが悪いので結婚に結び付かないというお話があったが、そういうことも考えるとよい岡山が作れるのではないか。

【村中委員】

アンケート結果によると、3割近くが「理想的な相手が見つければ結婚したい」とあるが、これは見つからなければ結婚したくないということ。独身にとどまっている理由の「適当な相手にめぐり会わない」の適当というのは、自分にとって都合のいい人で、そんな人は永久に現れない。若い世代の方は、個人として充実しようとする傾向がある。「子育てをすることで感じること」では7割の方が子育ては楽しいと答え、子どもはかわいいと思っている。しかし、かわいいだけでは育

たない。それには、お母さんが育児の負担を一人で担わなければいけないという、日本独特の理由がある。とにかくお父さんは忙しく、地域は干渉しない、若いお母さんも干渉されたくない。しかし、子どもを育てるには、それは通用しない。育児休暇の取得率は男性が2%で女性は8割。これは男性が悪いのではなく、取れない現状や制度を取得して戻ったらポストがないということもある。ベビーバギーを引いて外に出ると、周りが冷たく、また、保育所が近くに建つとなると、やかましいからと総反対されるという、どうにもならない問題がお母さんの心の中にのしかかっている。若い方も高齢者も、他者に対して非寛容的であり、それを解消しないと世の中はよくなるらない。

この問題を岡山県がどう率先して解消していくかということで、ヒントを得たのが、江戸川区の「すくすくスクール」である。働くお母さんは、子どもが小学校1年生になったら学童に入れようとするが、学童は満杯で入れない。学童を充実させるにはお金が必要だが、お金を使わずに解消しているのが「すくすくスクール」である。ここでは、子どもたちを全員受け入れている。地域の高齢者が自分の特技を使って子どもたちを見ている。「自分たちは必要とされている」「子どもを育てないといけない」と高齢者も生き生きと生活し、罹病率も減り、地域に温かく育まれて、みんなで育てている喜びのようなものができている。

ソーシャルキャピタル、つまり人と人との温かく繋がる、人間性の豊かさも一つの社会的資源として位置付け、母親が孤立しないように、人材を積極的に活用してみんなで育てることを早急に実現すると、母親の虐待やいらいらした子どもに育つことの予防になるのではないか。子育て参加していただけるよう、町内会や女性の会などへの働きかけが大事と思う。

【知事】

私自身も、支店長が家族連れか単身赴任で来るのかというのは、教育がどうかということが大きいと聞く。公共交通の視点、住む場所の問題は密接に関わっていて、固まって住むのか、それとも行き来しやすいようにするのか、一つだけで考えるのではなく、システムを考えなければいけないと思った。

特に男性は結婚して、食べさせていける自信があるかどうかは結婚と直結する。以前よりも、一人前と見なされるものは明らかに上がっており、それは一つの流れなのかもしれない。それは、我々が制度なりを変えるしかないわけで、どこかでしっかり考えないといけない。

県外への転出は非常に分かりやすく、特定の時期で出るのは明らかなので、我々はもっと明確に考えていくべきと強く思った。

楽しさということでは、自分たちがどこで何をするかというのは、所得や便利さを頭で考えるところがあるが、最後は自分の住みたいところに住むので、感情や感覚に訴えるための努力は必要である。パッケージ自体を感情に訴えるのは大事と思う。

リーダーシップについては、知事や市長が頑張れば良くなるはずで、よくないなら替えることになる。総理大臣をこれだけ替えてうまくいかないというのは、たぶん合っていないからで、逆に、替え過ぎてひどいことになっている。そうではなく、我々一人一人が一步步動く方が、絶対に方向性として正しいと思っている。

それぞれの人が頑張り、踏み出したくなる地域にどのようにしていくか、受け入れ側の意識はすごく大事だ。空家の問題、仏壇の問題はよく聞く。県内にある15%の空家も、どんどん悪化するので、知恵を出していきたいと思う。

先週末にイクボス宣言することを発表した。これは、ただ宣言というだけではなく、将来を見据え、人事の仕組みから変えることを決断した。賛同や批判もあるだろうが、説明していく覚悟だ。私自身も、下の娘が小学校に入ったときを機に、これまでより少し早めに起きるようにし、今日もバス停まで送った。朝ご飯を一緒に食べて、お皿を洗い、玄関前を掃いてから出勤している。少し進歩しているかと思っている。みんなで子育てすることを進めていきたいと思う。

【武久瀬戸内市長】

周辺地域には人と人の繋がりはあるが、社会インフラの部分が非常にプアで、両方が揃っていないと住むのは難しい。中心部だけがよくなり、周辺部がさびれるのは、市、県、日本全体で同じ構造だ。市町村、県も周辺部の生活が成り立つように力を入れていくことが大切である。そのためには、その地域だからこそできる教育のやり方で、公共交通、空家、学校など子どもたちが地域に関わる機会を増やす。例えば、英語に特化したり、地域にある伝統、自然など特有の地域資源を生かし、意識が向く仕組や予算措置を考える必要がある。

18歳と22歳の話があったが、大事なのは高校だ。小中の段階で、いかに地元の県立高校に行かせるかが大事であり、そのためには、選べる県立高校を作らないといけない。岡山市内の普通科を中心に皆が行くのではなく、我々で言うと邑久高校には、頑張れば行けるという状況を作らないといけない。当然そこには競争率の問題もある。地元の高校へ行って、地元の大学に入ることが、結果的に地元に残る確率を増やしていくわけで、そのためには高校の質を上げ、特色ある学校づくりなど、市として県立高校をどう応援できるかということを考えないといけない。

併せて、地域に関わる機会を高校の段階でどれだけたくさん作れるか。地域に関わる機会が高校にないことが、結果的に地域から糸の切れた凧のようになることに繋がるのではないのか。高校の段階で、地域の行事や地域に関わる機会を作っていこうと思う。高校で進路を考えるとき、地元企業が選択肢の中に残っている状態を作ろうと思えば、地元企業を知る機会を作らないといけない。それが、地域に繋ぎとめる重要な役割を果たすのではないのか。地域に貢献する人材を育成していくことも、地域での活動に通じる部分が大きいので、小中高で体験ができればと思う。

【松本委員】

利便性や医療、教育等の暮らしのサービス、仕事、給与水準等は東京、大阪と比較して、それを目指してはいけない。人口密度が違うので仕方がないことだ。感情に訴えるような地域のアイデンティティーを作る工夫をしないとけない。

人口減少と流出を食い止めるためには、網羅的に地域産業の競争力の強化、まちづくり、人づくりをしなければいけない。金融機関の立場で言うと、産業力、地域の経済力を維持・向上させていくことがベースにあると思う。雇用があり、給与があり、初めて暮らしが成り立つ。これまでの大量生産、大量販売でコストを削減して利益を絞り出す企業の経営スタンスではなく、新しい生活サービスを考える。あるいは国内から海外の販売、内から外へ経営スタンスを変えなければいけない局面がある。全部の企業ではないが、そういうことを地域として進めなければいけないと思う。特に個々の企業にとってはイノベーションがキーワードになっている。新たな製品、付加価値を付けていく動き、そのためには、自社だけで完結するのは難しいので、域内、域外との連携や、域内においてもいろいろな業種、分野と連携していく。

日本政策投資銀行は2012年に人口減少問題研究会を立ち上げ、2014年6月に最終報告書を出

した。金融機関の立場から、我々は資金を提供するだけではなく、人と情報のネットワークを生かして産学官金融でプラットフォームのようなものを作り、媒介機能を果たそうという提言をしている。個々の企業では努力の限界があるので、各分野、各地域にそういう集まりを作り、その中で産業力をつけて、暮らしのベースを作る、人口減少や流出は、ある程度、歯止めがきくのではないか思っている。

【宮長委員】

結婚に関する意識調査では、いずれ結婚したいと考えている割合が61.4%ということは、3人に1人は現在のところ考えていないということで、結婚しないと人口は増えないのは事実だと思う。阻害要因は「適当な相手にめぐり会えない」が1番なので、お節介クラブのような場の機会の提供など、できることはやったほうがいいと思う。中国銀行でも、今年から婚活支援をインフォーマルな形でやっており、他の企業とも連携する動きがある。行政がどういう関わりができるかわからないが、こういう広がりを持っていく余地はあるかと思う。

結婚に関しては、経済的な問題と仕事の両立の問題の2つに集約されている。女性の安定的な雇用の場の創出を広げることが必要だ。女性の働きやすい環境づくりをどう官民挙げて実践していくか。中国銀行では、「虹色ワークプロジェクト」として、女性がどうすれば元の職場で活躍できるか、その障壁は何か、それをクリアするにはどうすればいいかということ、去年10月から女性11名のチームをつくって検討し、3月に提言をいただいた。これを元に本部と一緒に具体的な施策を検討している。トップダウンで決めることは決めようと思っている。

育児休暇や勤務時間短縮などを行っているが、取りにくい実情があり、意識をどう変えるかが一番必要かと思う。女性もそこそこ働ければいい、キャリアアップを望まない人も3分の2ぐらいはいる。男性の場合は、家事や育児に対して女性がやるべきものだという概念がまだあるので、そこをどう変えていくか、企業の責任において少し踏み込んで検討していきたい。行政にもいろいろな形で後押しいただき、連携できるところは連携したらいいと思う。

移住先の希望ランキングの上位をチャンスに、岡山に来ればこういう仕事ができ、生活も安定して住みやすいという仕組づくりをいかに早くするかだと思う。銀行では、企業の成長支援や創業支援を行っているが、産業振興が一番のポイントと思っている。個別に企業に対しては、銀行・金融サイドでの仕組づくりや行政と連携する道筋ができていると思うが、岡山としてのもう一つ核になる産業振興がないと、若い方が大学で東京や京阪神に行くと、岡山には大した企業もないので東京に残ろうということになってしまう。やはり学生にとって魅力ある受入場所となる産業振興が必要と思う。岡山で言うと、介護医療関連のヘルスケア事業の集積が一番可能性があると思っている。県も「医療機器開発プロモートおかやま」を発足し、私どもも全国的な「地域ヘルスケア産業支援ファンド」に出資し、リスクマネーの供給ができる体制ができている。こうしたことを繋げ、なおかつ、産業クラスターのようなヘルスケアの産業集積が岡山にでき、それが付加価値の高い産業になれば、どんどん若い人も帰れるのではないかと思う。

【赤迫委員】

結婚したい気持はあるが適切な相手にめぐり合わない理由としては、そういう機会が少ないことがある。そういう場に出てこない、何がなんでも結婚したい、赤ちゃんを育てたいという若者の意欲のモチベーションが上がるにはどうしたらいいか。岡山県でも少しずつ広がっているが、

0歳の赤ちゃんと思春期の子どもたちをマッチングする「赤ちゃん登校日」という事業がある。中学生がお母さんに憧れたり、父親になったら手伝いたいとか、かわいい赤ちゃんを早く欲しいとか、そういう憧れや強い気持ちが湧いてくる機会が少ない。それがあれば、自分たちで開拓することに繋がり、父親の子育てにも繋がると思う。

若者の意欲の低下は、長いスパンになるが、子どもたちの遊びが不足し、好奇心旺盛に育つことが少ないからと思っている。子どもにはその時期、その時期に必要な体験がある。人口減少の歯止めにはばかり目がいくが、子どもの発達の保障を欠くと、結果的にはいい方向にならない。私は、子育て中のお母さんを応援する活動をしているが、そこに見学に来られた保育園の先生の「ここで大人に関わってもらっている子どもたちは幸せだ。保育園にいる子どもたちは、先生の手が届きにくく、十分なことができない辛さがある」という話が印象的だった。働いていても、働いていなくても、子どもが必ず必要な発達の保障ができる仕組みが必要だ。

先日、子育て同盟サミットに参加した。井村屋さんの事業の報告にあった、企業が保育園を持つ取組も今後広がっていくと思うが、心配なのは、保育の質が確保されるかということだ。専門家やNPOと連携して、女性が働きやすい社会にするには、そこもしっかり見据えて、子どもの人権を大切にしている岡山県を強く願っている。

【知事】

目指すべき将来の方向を3つ掲げているが、自然増、県外からの社会増、県内での社会増減に関するもので、日本全体、県、県内の相似形を意識している。

ミニ東京は、難しく意味ないというお話は、ベースになる考え方だと思う。作業力がないと何をやっても絵に描いた餅というのは、まさに仕事がないと結婚できないと一緒に、現実的に考えなければいけないと思っている。

産業振興はすごく大事である。産業全体もそうだが、県外の大学卒業後に岡山に戻ってくるための企業の受け皿づくりとしては、ありがたいことに中国銀行や岡山ガスに頑張ってもらっている。医療介護は明らかにこれから大きい雇用の吸収力となる。

宮長委員から「虹色ハートプロジェクト」のお話をいただいたが、イクボス宣言をしていただけるのではないかと期待し、またご相談をさせていただきたい。私は、イクボス宣言をするに当たって、県内の主要な団体の方に道連れになっていただこうと思っているので、検討いただければ幸いだ。今日はクールビズでネクタイをしている人はいません。これは、やろうと言ってもなかなかできなかったことだ。できた理由としてよく言われるのが、役所や銀行がやったからということ。育児休暇も役所が取っていないのに、民間企業に取ってほしいとは言いづらい。役所と銀行が率先するようよろしくお願いしたい。

赤ちゃんがいかにかわいか、素晴らしい保育がいかに感じるものがあるかは、想像と見るのでは随分違う。体験は素晴らしいと思う。我々は、若過ぎる、早過ぎる妊娠を防ぐことに少し一生懸命になり過ぎていたのかと感じている。いいやり方を試していきたい。

【知事まとめ】

短時間で非常に実りあるいろいろなご意見、アイデア、ご示唆をいただいた。このような意見を盛り込めるようにするために骨格で作っているの、いろいろな人の思いが響き合うものにしていきたい。人口ビジョン、総合戦略を作ることも自体が目的ではなく、これを実行して、いかに

役所、組織、それぞれの人々の行動を変えていくかということである、実践でもご協力をお願いすることになろうかと思うが、よろしく願います。